

2017.7.30 流山子育てネット 研修会付箋の内容

ピンク(児童福祉法改正・柏女先生の基調講演感想)

- ・児童福祉法の改正のポイントがとてもわかりやすかったです。昔は地域や親類でできていたことができなくなってしまったことが、とても残念に思いました。
- ・児童福祉法が改正に至るまでの背景が非常によく理解できました。家庭での問題、行政の限界を感じる中で、私たちに何が出来るかを深く考える必要があると思いました。
- ・児童福祉法の基本的な考え方が理解できて良かった。何よりも一人一人の子ども達の最善の利益がきちんと保証されるように、大人たちの果たす役割は大きいと実感した。
- ・児童福祉改正のポイント。流山市の現状と課題などとても明解で分かりやすいご講演大変勉強になりました。
- ・子どもの虐待を未然に防ぐための子育て支援と顕在化した時のエスカレーションを適切に行う為のしくみ作りを両輪で行っていく必要があると再確認した。
- ・大変わかりやすい内容で、法改正についても理解しやすかったと思います。自分のやるべきこと等考えていく上でとても参考になりました。
- ・改正児童福祉法の基本的な情報と流山の子育ての課題を伺い、勉強になりました。
- ・児童福祉法が70年を迎え、今の社会に適したものに変わってきた、変えざるを得ないことが伝わってきました。これは、人間社会のつながりが弱くなったからかもしれません。子育てネットを挟んで強くなるといいですね。
- ・何でも相談、ワンストップなどコンシェルジュのようなものが求められていると思いました。
- ・流山子育てネットで市民と行政とゆるやかにつながって子育て支援をしていけたらと思いました。
- ・共生社会の創出には公も民も共同が必要ですが、どうしても対等ではなく上下関係になり、人件費削減やコスト削減が効能の一つとして考えられている点が心配です。
- ・流山市の現状・日本の子育ての法的な構造、両方がわかったので自分(達)の立ち位置が明確にできてよかった。課題はいっぱい。皆で協力していきたい。
- ・子育て支援の法律。今と昔の子育て環境の違いと近年の子育てを取り巻く社会体制を改めて聞けてよかった。後半の流山の現状と自分自身のリアルな子育てを照らし合わせて親としてできることをしっかり考えていこうと思った。
- ・今と昔では時代が変わったことがわかりました。
- ・子ども・子育て包括支援センターの設置は急務の課題だと思いました。
- ・2016年に大きく変わった児童福祉法について、「子どもを育てる一番の責任者は保護者である」ということは当たり前であるけれど、ますます親の精神的負担が大きくなるのではと心配になった。「子育て」を重荷になってしまっている親を、昔のように隣・近所で育てるような互助をもつとできればと思うのは時代遅れ…でしょうか。
- ・子育ては地域行政、親との連携がないとつながらない。寄り添う場、相談しやすい窓口が身近であってほしい。
- ・地域全体で子育てをサポートするネットワーク作りがいかに必要か再確認しました。昔のような近隣で育てるといった事が難しいので、包括的な取り組みが必要です。
- ・大変貴重なお話勉強になりました。近所で子どもを育てる大切さを広げていきたい。
- ・ひとりの子どもを育てるにはたくさんの人の支えが必要。支えがバラバラにならないことが今こそ大事。

ピンク付箋(児童福祉法改正・柏女先生の基調講演感想)

- ・行政の役割、民の役割、子どもをまん中に誰もが担える、つながれる！！
- ・分かりやすく助かりました。(支援施策のつなぎ配慮)市町村と都道府県の実施体制が二元化・教育分野との切れ目の深さにて継続的な支援体制がとりにくい。自分の課題に重なり、このような会議の積み重ねが解決につながるという希望を持ちたい。「子どもをまん中にした支援へ」
- ・子ども達を行政と地域とで手を取り合って皆で“オール流山”で温かく育てていきたい。子どもは“流山の未来”
- ・社会全体で子育て支援をする大切さがわかりました。「人が人を育てる」「世代をつなぐ」皆で考えあったり、それぞれにできることが良い形で構築できると良いと思いました。
- ・包括ケア・子はかすがい(心に響いた)・理念は重要だと改めて思った。
- ・是非切れ目のない支援ができるよう希望します。
- ・子どもの最善の利益を考えながら、子どもと親の支援がどのようにするべきかしっかりと考えていなくてはいけないと思った。
- ・社会的にも・法的にも保護者の願いも「子の最善の利益」なのだが、行政判断がコスト削減を優先されている点が気になります。
- ・子どもを支えるためには子どもを養育する親を支え応援しなくてはならない。
- ・法のお話が分かりやすくとても参考になりました。私が、40年活動をしているのは、我が子だけでなく、次の世代に贈るメッセージと先生のお言葉通りの思いで他のお子さんも大事の観点から続けられると思っています。他人のお子さんもみんな育てる。これに強く感じる私です。とてもよいお話ありがとうございました。
- ・国の最前線で活躍されている先生のお話を聞き、もっと里親が増えるといいなと思います。子どもを育てるのにお金がかかりすぎるので他の子までは難しいと感じています。
- ・子どもが小さい時にあまり過保護にせず国際的に活躍するとしたら、10歳くらいでなんでもできるよう自立させた方がいいし、そうすると教育との連携も必要と思う。
- ・地域社会が子育てサポートをする。大人も子どももwinwinな関係で心に余裕がある。笑顔流山は幸せだと思います。大泣きされてもスマホを見つめ、お子さんを見ていないお母さんにも余裕がない生活がもしかしたらあるのかも思ったりしました。
- ・自分が子育てをしている頃、流山市は高齢者福祉に手厚いというイメージがあり、もっと子育てに関して市政を考えてほしいと思っていた。今日、話を聞くことができ、行政の複雑な事情もあり、なかなか難しいのだなと大きくなずけた。自分の息子(小6)が大人になり、子育てする頃には良くなっていることを願い、手伝えることをしていきたい。
- ・子どもへのやさしさ。親へのやさしさ。
- ・あの時(乳児期の姿)を思い出しこんな立派になっていたのだと、感動します。そんな子たちがいずれ親となった時、いつまでも故郷のように思い出してくれる園、つらい時にあそこへ行けば話を聞いてくれる。安心できる園でありたいと思いました。ありがとうございました。
- ・行政と子育てネットのさらなる情報共有
- ・理論としての施策を一般市民がわかりやすく聞ける場は少ないので、とても分かりやすく良かったと思います。
- ・基本的な考え方の共通理解をしてこそ、次のステップへとつながると思いました。
- ・A 児童福祉法 教育基本法 子ども子育て支援法 B 課題 C 流山子育てネットについてポイントを伺うことができよかったです。

ピンク付箋(児童福祉法改正・柏女先生の基調講演感想)

- ・聞きやすかったです。全体像がよくわかりました。
- ・情報は知識である。知恵となる情報を！
- ・正解がない、ある意味どれも正しい意見の世界・分野と感じました。
- ・70年ぶりの児童福祉法の改正ということで内容を分かりやすく、ポイントを押さえて話し示していただき、勉強になりました。子育て支援の施策が他の福祉に比べて複雑な体制であるというお話は、納得できだからこそ色々な団体の横のつながりが大切なのだと(民と官のつながりも)再確認できました。
- ・様々な子育て分野のネットワークを拡充していくことの大切さ。
- ・このことでも、老人の支援体制のように各機関が垣根なくケース会議できるのは本当に大切だし、すぐやれると思います。
- ・共通理解の大切さ
- ・保護者が第一次的責任者で地域子育て支援事業や子どもの福祉制度とその他の法律がどの程度どのような形で連携されているか図でよくわかりました。大変複雑ですね。現場での戸惑いをそのまま表しているようで他方向への連携が必要なことの認識をあらたにしました。
- ・法制度の面からも改めて切れ目のないネットワークが必要と痛感した。
- ・公民協働による支援体制の必要性を強く感じます。互いがやるべきことを果たし、共に連携できる流山市の子育て支援の仕組みを作っていかななくては！！行政職員として、足りないことばかりだと再認識しました。ハード面とともにソフト面の充実、拡充を目指したいです。子育て支援のニーズが多様化する中、各専門分野での連携が必要と感じました。
- ・柏女先生ありがとうございました。「切れ目のない支援」という話の中で、単純に各施設の責任者がつながるだけでなく、どうつなげていくのかとても難しい課題だと感じました。
- ・各団体間の連携の不足の解消のヒントをいただきました。(子どもを取り巻く事象の複雑化も要因)
- ・子育て支援の関係者大勢います。お互いのできることを、行っていること課題を知り合うことから始めることが大切ですね！子育て支援の仕組みづくり、流山市オリジナルで考えていく時なのでしょう。
- ・子育て・児童福祉・教育委員など各制度との切れ目に対して連携して対応するのはもちろんですが、切れ目に対応する司令塔が必要になると感じた。

黄色付箋(課題)

- ・何が困っているのか本人はわからないことが多い。本音を引き出し、必要なサービスにつなげる。
- ・乳幼児の子どもを持つ親の支援をしています。これからはますます妊娠期から小学校へ行く子どもを持つ親の支援が必要だと思っています。
- ・それぞれ専門の部間では意識高く取り組んでおられることはわかりましたが、子どもにとってその専門やその時代とは関係なくひとりの子どもが生まれてから長く見守っていく人が親以外に必要なかなと思いました。
- ・福祉部門の支援拠点づくりの中身！！早急な課題。「ワンストップコーディネート」大切な課題。
- ・切れ目のない支援
- ・学童クラブ、放課後サービス子どもの育成に加えて、親への支援。親が精神疾患や発達障害を抱えているケースが多い。保健師さんとの連携が必要ではないか。
- ・保護者の支援するべき時にうまく伝えられること、また、よりよい働きかけが出来るようになる。

黄色付箋(課題)

- ・課題の見える化が必要。課題の見える化は情報であり、アイデアを生む。情報は安心を産む。
- ・今の保護者に合わせた対応が必要。保護者に対してわかりやすい方法で伝える(伝え方の工夫)保護者との話の中で悩みにすぐ答えられるような色んなところとの連携が必要。それが、保護者にも伝わるように掲示か口頭でも伝えられるように知識を増やす。
- ・転入孤立... 2割も居るオドロキました。産前からの環境(子育て)作りが重要と知りました。待機児童、保育士さん、保育所、保育内容も未完成。しかし、お産カフェがあったり、すこし心が落ち着きました。どんな立場の方も SOS を受け止めてくれる場所の認知と誰かの助けを誰でも求められるようにと思います。
- ・課題そのものを出し、整理、役割分担、負荷分散するのが課題ではないか。
- ・必要な個々の人たちに対し、寄り添う支援を継続していけるようにする→対象者の増加に追いついていない現実があります。
- ・各施設との連携 保護者への情報発信
- ・他機関との連携、どの話を聞いても課題だと感じた。広く情報を集め、どのような支援の場があるか視野を広げていかなければと感じた。
- ・0~3 歳の発達 3~6 歳の発達・学童期・年齢による子どもの環境を充実させる必要があると思うが、人数(待機)や保護者の問題が目につき、その問題がクローズアップされ預けられる子どもの環境を守れるのか。
- ・子どもがわからない。どうコミュニケーションをとったらいいのかわからない。保護者のニーズをどうすくい取るのか。話を聞くだけでもいいのだが、うまくきけているのか。(全てをやってあげられるわけではない)
- ・多様な幅広い子育ての課題をどのように集約して優先順位をつけていくのか。
- ・櫻庭先生の言葉が心に届いた(伝えることの難しさの重要性)・藪本先生 0~2 歳親への寄り添い。
- ・学童保育の中に子どもの成長のキーワードがあるはずだが、現状の広さや指導員の人数では最低ラインのサービスしかできなくなるのではないか。
- ・病院の総合診療科のような窓口的な場所が必要。
- ・月8~10回(マタニティヨガ・産後ヨガ)「赤ちゃんと一緒に美ヨガ・&ダンスサークル」を開催しているが、たまたま知った方はラッキーだが情報が現場のママに届きにくいので子育て支援をしている市民団体・NPO・サークルの存在を保健センターから一括で配信してほしい。それによって、保健センターを支えたい。そして、妊娠期から地域に知人ができる。妊娠期から赤ちゃんを触れ合える! 悩みも話せる、ホッとできる場はあります。
- ・情報提供の方法、出産前から一貫したサポート。わかりやすい情報開示が必要。どこへどんな時助けを求めるのかわかり辛いことが課題ではないかと感じます。
- ・18 歳以降に出現・噴出する問題を予防するために統一された支援ツール、知識の注入・教育が必須!
- ・障害者差別解消法が制定され動き出したが、まだまだ合理的配慮について理解されていない状況を確認できたが他にはどのようなものがあるのか、自ら足を運んでみたいと思う。子育てネットのグループでは(・・・不明)要望だけではなく、母親・父親が何をし、何を心得るべきかについて伺いたい。
- ・民生委員 = 高齢者支援のイメージしかないのですが...

黄色付箋(課題)

- ・既に今ある資源をわかりやすく、手に入れられる普及、啓発方法の配備。
 - ・既に今ある資源の中の職員のスキル向上とそれを支援する方法(助成金)など。
 - ・赤ちゃんを産む前に、もっと抱っこし、触れ合う機会を教育の中に入れていくべき。
 - ・切れ目のない支援に際して行政は縦割りである。
 - ・悩んでいる親がつながる場所が必要だが、働いている親は送り迎えで精一杯。
 - ・市・街の用意としてはまず0歳～2歳→保育園→幼稚園→小学校・・・連携がせめてここまで可視できると子育てするなら流山なのかもしれません。
 - ・学童クラブのお仕事の幅の広さには頭がさがります。
 - ・障害の子を持つ親の認識→自立目標へある程度どう動けるか、どう施設を利用できるか、やがて一人で生きていけるのか？は全世界の問題かと思いました。
 - ・松戸健康福祉センター(流山市・我孫子市)野田健康福祉センター15.5万人の(野田市のみ)流山保健福祉センターが必要な状況になっていると思います。
 - ・津久井やまゆり園の事件と、吉田先生の話と、発達障害の課題を同じものとして語ってはいけないと思います。
 - ・核家族世帯が多くなっています。保健センターの活動をまた、子育て支援センターの内容をわかりやすく足が向くようにしたらいいのでは…。
 - ・児童・子ども・親についてつきるところはみな同じと思いました。「切れ目なく」が関わる上で大事と思いました。
 - ・子どもが心身共に健全に成長するには、家庭だけでなく家族さえもサポートする体制が必要。
 - ・現場の生の声をきかせていただく場をもっと増やしていく必要を強く感じた(議員として)
 - ・ネットワークは自然に切れ目が出来たのではなく、経済効率性を優先されたことも原因の一つでは？地域も保護者も自治力を高めあうことが必要では？
- 子ども家庭課も、保健センターも学校も人手が足りません。保育も学童も障害支援も専門性の継続に支障もあります。「砂上の楼閣」を見つめることができ、公民施設を超えた「オール流山」の大切を感じた。
- ・ワンストップと包括的な支援を子ども・子育て支援と。
 - ・自分自身ももっと気軽に支援を受けるべきだった。(受けていこうと思う)こんなことを相談しているのかな？そんな大事ではないんだけど、とってしまう。
 - ・親として主導権を握り、子との生活や周りとの連携をしていかないといけない。情報をキャッチする力も必要。

青の付箋(全体の感想・自分はどう行動するか)

- ・顔のみえる会議の継続・子育て支援チーム流山の結成！
- ・地域・関係機関とつながっていく。各々の部署の役割・得意な所をつなげながら支援していけると良いと思います。つながっていけるように動いていくこと。大事と思いました。
- ・1つ1つのケースを考え、対応するためにどこにつなげるかは、子育てに関わる者がつながることが(まわりの宝を知る)必要。
- ・保護者に伝えたり、支援センターなどと協力をしてよりよい子育てになるようにする。
- ・親との信頼関係を築く、学校や保健師さんなどと連携がとれるようにしたい。
- ・現時点で、どこで何ができているのか、何が足りないのかをしっかりと把握して個々の案件に何が必要か判断し、丁寧に話し合っていく。連携をとっていく。

青の付箋(全体の感想・自分はどう行動するか)

- ・今まで以上にまわりのお子さん、お年寄りの方には目を向けて気になることがあれば各関係機関に、連絡・連携できればと思います。
- ・幼稚園と保育園のチーム作り(チーム流山という言葉も)という心強いお言葉がありました。子育てネット全体がチームとなって信頼の絆を築いていきたい。今日知ることができた方々とながってほしいと思います。
- ・切れ目のない支援・地域との連携・ネットワーク強化・支援者の研修
- ・行政と民間との協働づくりによる包括的・継続的支援
- ・公と他事業者との協働&相互連携の強化
- ・多様性のある家庭や発展の中で、縦と横のネットワークで困り感を解消。理解とどう繋ぐか。
- ・この10人でネットワークが作れるか?作りましょう!
- ・ネットワーク(知)とチームワーク(動)
- ・保護者と支援者がともに育つ関係づくり。互いに学びあう関係。
- ・これからも変わらず、乳児・幼児・小学生の子ども達を見守りながら、親に寄り添い、言葉をかけ続けたいです。特に小学生の子を持つ親ごさんの話を聞く活動を続けられたらと思います。小さなことでもコツコツ自分のできる範囲で続けていきたいと思います。
- ・保護者の気持ちに寄り添う。とにかく話を聞くこと。話を聞いてもらうだけで安心する。グチでも話していいんだと思える。
- ・色々な人・団体の声に耳を傾けて、まずは話をよく聞く。
- ・まず、悩める人に寄り添う自分になる。そして寄り添う方を一人また一人と増やすことが最善と考えました。
- ・相談してくれる保護者を受け止めて、相談にあった答えを具体的に一緒に考えていけるようにしていけたらなと感じた。
- ・チーム、包括支援が実現する過程→臨床心理士として個別のニーズに対応する。支援が実現しやすくなる(情報発信課題)
- ・まず、自分のパーソナルな支援をやっていきたいと思いました。
- ・子の支援=親の支援→笑顔(^^)
- ・親と子の自己肯定感を育むことを目標にできることを考える。
- ・流山子育てネットの今日の話モデルに江東区でもモデルを作ります!互いの連携により流山の子育てモデルを発信します。
- ・様々な場面で、子ども達や保護者へのサポートが行われるのはとてもいいことだと思う。その際、サポートする側の寄り添う姿勢が問われるだろう。
- ・この勉強会をきっかけに、行政・支援制度・学校や保育所など地域のことを更に知ろうという気持ちが高まった。そういった意識の高い保護者や支援者が増えるために自分も地域の一員として活動していきたい。子育ての質も高めるために親も(保護者)も勉強して働くことが大事。
- ・ひまをしている高齢者(ふれあいの家)で学童保育の一部を担っていくシステムも児童館で高齢者と遊ぶなど必要かと思う。
- ・通知表・個人カードではなく、私のノートを赤ちゃんの時からつくる。
- ・縦割りの行政や社会をななめに走りつなげるのが議員の仕事。3世代近居を推進していくとよいのではないか。SNSの中に、子育てネットで悩みを訪ねる場所があるとよいのでは。
- ・シングルマザーの①就労②住むところ③預けるところを同時に支援する仕組みをつくる。

青の付箋(全体の感想・自分はどう行動するか)

- ・どんな方(年齢・立場・個性等)にとっても居場所となる。
- ・コミュニティスペース事業を通じた民間相談事業、病児の強化。
- ・親支援(専門性が高いペアレント・トレーニング 厚生労働省・市町村に)じっくり時間をかけて準備してほしい。
- ・子どもの育つ環境を保证するためのつながり
- ・親が親として育つための支援。この2つが一緒ではないと思うので、つながりも各々であっていいのかと思う。
- ・妊娠期から就労までの各方面の専門家の方々のご意見や課題を聞いたのが良かった。全体を通して思ったのは、子育ての現場に立つ方も保護者への関わりやサポート、保護者への教育について課題を抱えているということ。私自身も地域に関わる親として、各機関とのかかわり方についてより勉強していきたい。みんなが知ることが大切。
- ・ハード整備の偏重からソフトサービスへの整備へ
- ・地域内の事業者の「顔・腹・手腕」のより密なネットワーク形成&参入の促し。
- ・情報共有、地域の子供達の見守りをする方の拡充・子ども食堂の拡充
- ・自分の子育ての経験を通し、保護者に子の先の姿を伝えていく。
- ・保護者の悩みを聞き、一緒に考えていく、答えをおしつけない。他機関への連携も頭に入れる。仲間と保護者への伝え方を考える。
- ・自分の子育ても「子どもまかせ」にしないで一緒に成長していく、その姿を見てもらう。
- ・小児科医として、同時に現役子育てママとして、お子さんの成長、健康、発達面で不安があるママのお話をきき、アドバイスしたり、共感する場があれば私にも役に立つことがあるかと思います。
- ・今日、子育てに関わる皆様の声をきかせていただき、大変勉強になりました。皆さんからの課題として、おっしゃっていた内容について、少しでも前へ進むよう取り組んでいきたいと思っています。
- ・月8~10回のマタニティヨガ&産後ヨガを今まで通り開催して、赤ちゃんに触れ合う場、グチを話せる場、精神的なママサポート、何かあれば次につなげる場にしたいです。
- ・立場として、どんどん地域の中に入り込んで知り合える仲間になりたいと思います。Face to Face

